

人権研修会開催

開催日時：令和4年11月13日（日）13：30～15：00

開催会場：フラワータウン市民センター大ホール

講師：伊藤真波さん

演題：『あきらめない心』



～みんなで育もう 地域の輪と絆～をキャッチフレーズに、弥生校区地域人権教育協議会、弥生が丘自治会健康推進部、弥生が丘ふれあい活動推進協議会の3団体が共同主催により人権講演会を開催しました。小雨模様にもかかわらず約100名の参加者がありました。

この催しは「人と人のつながりを大切に、共に寄り添いあう社会、そして誰もが明るく、楽しく元気に過ごせる地域をめざし、心と身体の健康を高めよう」との趣旨で、私達3団体が協働して企画・運営を行いました。今年で3年目となります。

今年は、義手のヴァイオリニスト、元看護師、パラリンピック水泳競技にも2度出場された伊藤真波さんをゲストにお迎えし『あきらめない心』と題して一時間半にわたり、バイク事故で片腕をなくされてから現在に至るまでの経過を熱くお話しいただきました。最後にヴァイオリン演奏もお聞かせいただきました。

看護師をめざしていた伊藤さんは20歳の時看護学校に向かう途中バイクで交通事故に遭い、右腕を切断されました。入院されたりリハビリテーション病院でいろんな障害がありながら這い上がろうとする仲間らに感化され、「もう一度夢を持とう」と決意されたそうです。伊藤さんご自身の「決してあきらめない」強い意志と、両親や家族をはじめ、病院関係者など多くの方々の理解と支えがあり見事社会復帰されました。現在は講演活動などに全国を回られています。

私たちも、地域で生活していく上で住民同士がお互いに支え合う、助けあう事の大切さを、改めて気づかされた伊藤さんの講演でした。共生社会の実現に向け、私たちの人権協議会の取り組みを一層進めてまいります。

（報告）弥生校区地域人権教育協議会
事務局 西中 孝夫

（参加者の感想）

- ・伊藤さんのお話をお聞きし思わず目がしらを抑えてしまいました。感動しました
- ・障害のある方、ない方にかかわらず共に助け合い、協力し合う大切さを学びました
- ・交通事故で片腕をなくされたにもかかわらず見事立ち直られた伊藤さんの力強い生き方に感銘を受けました
- ・SDGsの目標・Goalsである「誰一人取り残さない」社会の実現に向け皆と活動できたらと思いました
- ・今日の講演会に参加して本当に良かったです。勇気と力添えをいただき、将来の生き方の参考になりました
- ・今日のような講演会は、来年もぜひ開催して下さい



伊藤さんが2020
東京パラリンピック
聖火リレーで
使用されたトーチ

